

## 動物用抗菌剤研究会

- 1 学会名：動物用抗菌剤研究会  
(Japanese Society of Antimicrobials for Animals)
- 2 事務所所在地  
〒180-8602 武蔵野市境南町 1-7-1  
日本獣医生命科学大学獣医微生物学教室内  
TEL 0422-31-4151 (内線 3460～3462)  
FAX 0422-31-4560  
E-mail info@jantianim.jp  
URL http://www.jantianim.jp/

### 3 目的

本会は、動物用抗菌剤(抗菌性物質)の基礎面と応用面並びに薬剤耐性菌に関する研究調査、知識及び技術の普及を行い、動物の衛生並びに公衆衛生上の問題点を検討し、もって薬剤使用の適正化をはかり、動物の健康の維持・向上並びに畜・水産振興に寄与することを目的としている。

### 4 組織

- 理事長：田村 豊 (酪農学園大学獣医学群食品衛生学)  
副理事長：平山紀夫 (麻布大学客員教授)  
理事：30名以内  
監事：2名  
会員数：133名 (平成26年12月現在)  
賛助会員：22社 (平成26年12月現在)

### 5 沿革

本会は、1973年4月に「家畜の耐性菌研究会」として発足した。当時、薬剤耐性菌は、日本でも家畜衛生や公衆衛生分野で問題となってきた時期であり、大学、研究所、農水省、地方庁などの獣医学関係主要機関の代表者が参集し、シンポジウムの開催や文献リストの作成等の活動を開始した。

その後、1983年4月に本会の名称を「家畜抗菌剤研究会」と改め、薬剤耐性菌問題とともに、家畜への抗菌剤の適正使用の問題も取り上げてきた。1992年4月には、養殖魚の薬剤耐性菌も盛んに議論されるようになり、水産用抗菌剤の問題も取り組めるよう、本会の名称も「動物用抗菌剤研究会」と改め、現在に至っている。

したがって、規模は小さいながら、わが国の獣医学関連の研究会として最も歴史のある学術団体である。

### 6 活動内容と特徴

毎年4月に日本獣医生命科学大学でシンポジウムを開催している。本シンポジウムは、1～2名による特別講演、その時々のトピックをテーマにした数題のシンポジウムⅠ及び新規に開発された動物用抗菌剤を紹介するシンポジウムⅡの三部構成である。昨年の第41回シンポジウム

では、「環境に拡散する薬剤耐性菌と抗菌薬」をテーマに実施した。本年のシンポジウムでは「伴侶動物医療における抗菌剤の使用と薬剤耐性菌の出現」というテーマで実施する予定である。

本会の社会に向けた活動の一環として、「動物用抗菌剤の臨床試験実施基準(試案)」を作成している。これまで牛、豚及び犬の特定疾病に関して12種類の基準を公表しており、動物用抗菌剤開発の臨床試験ガイドラインとして活用されている。また、分離菌株の最小発育阻止濃度(MIC)を測定する薬剤感受性試験法を公表しており、動物用抗菌剤研究会標準法として活用されている。

更に、個別の疾病に対する抗菌剤による治療指針の作成にも着手し、今年度事業として、「牛乳房炎治療薬ガイドライン」の出版を予定している。

本会の機関誌として「動物用抗菌剤研究会報」を年1回発行している。会報にはシンポジウムで発表された演題の論文や本会が作成したガイドライン等を掲載している。また、本会は、「動物用抗菌剤マニュアル」を2004年に出版したが、2013年に第2版として改訂版を出版した。本改訂版は、動物用抗菌剤に係る最新知見とわが国で使用されている動物用抗菌剤の情報を網羅した唯一の専門書である。

本会の今後の活動として、上記活動を活発化させるとともに、獣医療の臨床現場に役立つ情報提供を積極的に行う方針であり、開業獣医師の先生方の入会をお待ちしています。

本会の今後の活動として、上記活動を活発化させるとともに、獣医療の臨床現場に役立つ情報提供を積極的に行う方針であり、開業獣医師の先生方の入会をお待ちしています。

### 7 入会の方法など

#### ○入会方法

ホームページに入会フォームがあり、下記(\*印のある項目は必須)を明記し申し込んでください。

氏名(漢字、ふりがな)\*、所属団体名、連絡先住所\*、連絡先電話番号、連絡先FAX番号、E-mailアドレス、会報送付先\*、会員種別(個人会員・賛助会員)\*

#### ○年会費

個人会員：3,000円 賛助会員：一口10,000円

#### ○シンポジウム参加費

会員：無料 非会員：3,000円

### 8 文責者：片岡 康 (事務局担当理事)



最新データ  
動物用抗菌剤マニュアル  
第2版  
動物用抗菌剤研究会 編  
インターズー(株)  
(2013年4月発行)